



学校だより

# 一人一人が主人公

令和7年3月21日  
豊岡市立但東中学校  
3月号

【学校教育目標：ふるさとの未来を創る 自分をつくる 但東の子】

## 第21回卒業証書授与式

本年度の卒業生19人の新たな旅立ちの日は、美しい青空の好天に恵まれました。

おかげ様をもちまして、3月14日（金）に豊岡市立但東中学校第21回卒業証書授与式を、無事に開催することができました。ご支援ありがとうございました。



### ○卒業式の校長式辞にて（一部抜粋）

…本校の教育目標である「ふるさとの未来を創る 自分をつくる 但東の子」は、東井義雄先生の著書である「村を育てる学力」の影響を強く受けています。東井先生の願いは、「子どもたち一人一人が自分の命を大切にし、その生まれがいを発揮する」こと。そしてもう一つは、「全ての子どもたちの幸せの実現」でした。ですから「村を育てる学力」という言葉には、この但東町はもちろんのこと、「世界中の全ての村や国々が抱える課題を分かち合い、愛によって共に支え合うことができる幸せな社会の実現」という願いが込められています。

これまで皆さんは、本校のふるさと学習でSDGsの視点を取り入れて学習を進めてきました。この学習は、単に大規模な経済発展や開発だけに着目をするのではなく、ふるさとの自然環境や地域の生活等にも配慮した「持続可能な開発の重要性」にも目を向け、ふるさとの資源や産業に内在する価値を再発見し、ふるさとの未来や自分自身の可能性を探ることを目指した探求活動です。

この学びは、但東町だけでなく、皆さんが将来生活するであろう地域や他の国々においても役立つに違いないと思います。どうか中学校での学びを将来に生かしてほしいと思います。

そしてもう一つ、「自分は自分の主人公 世界でただひとりの 自分をつくっていく責任者」という言葉を大切にしてほしいと思います。東井先生は、喜びや悲しみを一人で抱え込むのではなく、皆で分かち合う事の大切さを説いておられます。しかし、この言葉だけは違います。

「自分をつくる」というこの一点においては、自分が「ただひとりの責任者である」と説いておられます。一見すると、厳しい言葉のようにも思えますが、確かに自分という存在だけは、誰とも分かち合うことは出来ません。そして何より、自分という存在が無ければ、誰かと何かを分かち合う事も出来ないのです。

「人生とは、本当の自分に巡り合う旅のようなもの」と東井先生は仰っています。どうか、皆さんの人生が豊かで実りある旅になることを祈念しています。



## ○卒業式の答辞にて 卒業生代表 高井 音 さん（一部抜粋）

…そして、あっという間に迎えた最後の1年。ずっと前から楽しみにしていた、2泊3日の修学旅行は本当に最高の思い出です。村田製作所ではカバンの置き方がとてもきれいだと言われたね。ディズニーは人が多く、2時間半並んだり、空いているアトラクションに乗ったりして、計画通りにはいかなかったけれど友達だけの時間は何事にも代えられない夢の時間でした。ハプニングや道に迷ったりもしたことも、ステキな思い出を引き立てるスパイスだったんだと思います。最後の体育祭は、係の仕事などで忙しかっただけれど、私たちの無敵な団結力や技術力などを発揮できました。特に印象に残ったのは、学年演技。2年生のときは紅白のチームだったので、2年ぶりに学年演技が決まったときから楽しみでした。私たちは、日頃から笑顔が絶えないクラス。本番はもちろん、練習の時からみんなが楽しく、練習に取り組んでいて、手作りのうちわを使ったり衣装を着たりして、明るく楽しく、遊び心全開で私達らしさを表現できたと思います。あげればキリのない暖かい思い出たちが私たちの宝物です。

後輩の皆さん。学校生活では、うまくリードできないこともたくさんあったかもしれないけれど、みなさんが支えてくれたおかげで、最後までやり切ることができました。ありがとう。同級生や後輩、先輩との関係を大切に、思い出をたくさん作って、充実した学校生活を送ってください。

卒業生のみんな。このクラスは雰囲気明るく、そして温かく、とても良いところで溢れてたよね。個性が豊かで、みんなが一体となって行動ができ、思いやりがあり、くだらないことで大笑いし、うまくいなくても最後まで諦めずに挑戦し続ける事など、その良さは数え切れません。個性が豊かな分、始めはお互いのことを理解することが難しかったり、喧嘩になったこともあったね。だけど、毎日ともに生活していく中でお互いのことを少しずつ知ることができ、クラス全体が、よりまとまっていくことができたよね。毎日が楽しく、充実していて、時々ふざけてしまったり調子に乗りすぎて、怒られる人もいたね。そんな雰囲気だったり、たわいのない会話で笑っていた日常が当たり前になっていました。私にとってみんなといた教室は安心できる場所で、みんなは特別な絆で結ばれている、もう一つの家族のような存在です。3年間、19人で作ってきた数々の思い出は、人生の中の大切な1ページになったと思います。万里一空。遠くにいても同じ広い空の下で、見上げる空は一緒。1人じゃないことを胸に明日からも自分らしく進んでいこう。私はこのクラスで過ごせて幸せでした。ありがとう。また会おうね。

3月24日（月）は豊岡市立但東中学校の令和6年度修了式となります。その1週間後の4月7日（月）には令和7年度の始業式を迎え、また新たな年度が始まります。そしてその翌日には新入生を迎えることとなります。

出会いの数と同じだけの別れがあり、そして別れの後にはまた新たな出会いがあります。子どもたちにとって学校は人生の通過点ですが、学校は子どもたちとの出会いと別れを繰り返しながらこれからも時を刻み続けます。地域、保護者の皆様におかれましては、本年度中に頂きましたご支援とご協力を今後とも賜りますようお願いいたします。